

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500360		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	〒023-0841 岩手県奥州市水沢真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の身体・精神面等の状態を把握し、他利用者様と共に楽しく安心して生活して頂けるよう介護・支援している。コロナ5類になり感染症対策が周知されたこともあり、家族との外出・外泊等も増えている。面会は玄関ホールで行っている。地域との交流として、近隣の小学校の田植え・稲刈りの見学、きらめきマラソンの応援、ソプラノコンサート鑑賞、花火大会の見学、ボランティア活動への参加、夏祭り鑑賞を行っている。他に施設の毎年恒例の行事として、無病息災祭り、季節毎のドライブ、運動会、BBQ、誕生日会、敬老会等いろいろなイベントを開催し楽しんで頂いている。職員による「劇団えんじゅ」も披露し他の事業所からのオファーがあった。利用者様の様子を「ほのか広報誌」や「えんじゅの里通信」、ブログにアップするなどして家族様や運営推進委員の方々に発信している。食事は3食手作りで提供している。畑で野菜を収穫し調理提供することにより、今の季節をより感じて頂いている。朝・夕に登下校する学生たちの姿を施設内から見守りして子供たちから元気をもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑に囲まれた田園地帯に位置し、周辺には小学校、産直などがあり、生活環境は整っている。職員が協議して作成したグループホームの理念を実現するため、その下に定めた3項目の方針について、毎年度3月に実施状況を振り返って評価し、次年度に向けた課題や対策を明確にし、利用者の思いや意向に沿った、きめ細かな介護サービス提供の実現に努めている。法人広報紙やホームの情報誌を通して、家族に生活状況をお知らせし、一方で運営推進会議の委員の助言や提案を受け、地域交流の進め方など、ホーム運営や日々の介護サービスに活かし、さらに、職員の提案を受け、業務の改善やホームの設備整備に取り組んでいるほか、資格取得の支援も行い職員のスキルアップに繋げている。コロナ禍で行動が制限される中、地域のボランティア活動への参加や地域住民によるプランターへの植栽の支援などを通して地域との交流にも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

「評価機関:特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	チームウェイ(えんじゅの里の理念)は、利用者様がいつまでも自分らしく生きる・生活できるように支援に努めたいと職員が話し合って作成した。3ヶ月に1回のCS向上委員会で取り組み報告・評価・課題等を報告し理念の共有・実践に努めている。	職員が協議して作成したグループホームの理念を実現するため、その下に定めた3項目の方針について、毎年度3月に実施状況を振り返って評価している。併せて次年度に向けた課題や対策を明確にし、職員全員で共有することにより、利用者の思いや意向に沿った、きめ細かな介護サービス提供の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	四季折々の地域との交流として、小学校の田植え・稲刈りの見学、きらめきマラソンの応援、地区センター夏祭り、花火大会、ゴミ拾いボランティア活動への参加をしている。敬老会開催にあたり初めて奥州市のホテルを使用し、近隣の花屋や食事処にも協力頂いている。	地域の花火大会でのゴミ拾いに参加したり、近隣住民によるプランターへの植栽などのボランティアの受け入れも行なっている。地域の方々から季節ごとの、果物や野菜などのお裾分けも日常的に行われており、地域との繋がりは、年々強くなってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症」への理解が増えている。「住み慣れた地域の施設にそのうち入りたいから」と見学や相談が多くなっている。駐車場で行う「BBQ」や「きらめきマラソン」で開放的な行事を行い地域の方々へのより一層の周知を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でGHの運営及び活動状況について報告している。利用者様の様々な行事参加を近隣住人として見守って下さっている事や日頃の様子や支援について評価いただきサービスの向上に活かしている。火災避難訓練では実際に利用者様の見守りをしていただき状態を把握し理解頂いている。	委員には入居者、入居者家族の他、市役所職員、振興会長、区長、民生委員、消防団員などの関係機関や地域代表、有識者で構成されている。委員からは公民館活動や地区イベントの紹介を受けたり、火災避難訓練の留意点などについての助言や提言を得ており、ホームの行事や運営、改善などに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス利用にあたり事務的な処理で分からない事がある時には相談している。介護認定後には主治医意見書を申請して利用者様の日常生活の自立度を確認している。利用者様の家族からの相談では市と情報交換を行い対応についての助言をいただいている。介護相談員の訪問受け入れを再開し、利用者様からの苦情や不満等をお伺いしサービスの質の改善に努めている。	運営推進会議の委員として、各種情報の提供を始めコロナ禍の対策などについて、助言や提言を得ている。要介護認定申請の際には、直接出向いて助言や指導を受けている。普段の連絡は、主にメールで行われており、介護相談員の訪問も受けている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催による身体拘束廃止委員会に3ヶ月に1回事業所から1名の委員が参加し、参加内容を職員間で共有し身体拘束をしないケアに努めている。又、職員会議で「連続する不適切なケアが安易な身体拘束につながる可能性がある」ことを勉強している。新任職員には指針を説明している。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	法人の身体拘束廃止委員会に管理者が出席し職員には会議の報告を通して趣旨の徹底を図っている。スピーチロックは、日常的に職員相互で注意し合って改善をしている。身体拘束の事例はないが、入居前から徘徊ネットワークに登録している利用者は、そのまま登録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の支援の中で何が虐待行為になるのか職員同士で話し合いながら、声かけやケアの方法が虐待にあたらないか注意を払いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催による権利擁護に関する研修会に参加して制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は入居後の生活について本人・家族様に十分な説明を行っている。不安・疑問について伺い話し合いを行うことで理解・納得を図っている。改定の際は、文章にて説明を行い、質問の際には十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様来所時に利用者様の様子をお伝えし要望・意見等をお伺いし介護記録やミーティング等で共有している。また、ご意見箱の設置や、毎月のおたよりに意見記入欄を設け、記載があった際は職員同士共有しミーティングや職員会議で話し合い運営に反映させている。	法人の広報紙やグループホームの機関紙を通じて、利用者の生活状況を家族に知らせているほか、随時、利用者の変化等を電話で連絡している。玄関での家族との面接時には、家族の要望等を可能な限り聴き取りし、職員で共有して日々のケアや業務に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや職員会議で職員の意見や提案等を聞く機会を設け、管理者・職員同士で話し合いを行い運営に反映させている。研修会への参加希望を把握し勉強することで介護サービスの質の向上に努め、職員の資格取得も勤務時間内で対応できるよう支援を行っている。	2ヵ月に1回の職員会議のほか、毎日行っている朝、夕の申し送りを通じて職員の提案等を受け、日々のケアサービスや行事、イベント、設備の拡充などにも活かしている。資格取得の有給支援にも積極的に対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員より休日希望を聞き希望に沿いながら、超過勤務にならない様な勤務表の作成をしている。月1回の産業医による安全衛生委員会への参加で、職員個々の健康維持・増進・働きやすく健全な職場環境への改善に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの個性や介護支援の力量を把握して社内・社外研修への参加をすることや、他事業所へ応援職員として勤務することによる介護力や介護の質の向上に努めている。職員の資格取得や研修への参加希望を把握し、法人として資格取得や研修費用を助成している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修や初任者研修、社外研修等へ参加することにより同業者との交流を図りサービスの質の向上や職員のスキルアップに繋がっている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の生活歴や習慣、本人の気持ちや困っていること不安なことなど傾聴し、必要なサービスを職員間で共有し話し合うことにより、本人が安心して生活できるよう良い関係作りに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活歴や習慣、家族の気持ちや困っていること不安なことなど傾聴し、必要なサービスを職員間で共有し話し合うことにより、本人が安心して生活できるよう良い関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様との関係性を理解し、今必要と思われるサービスを把握し支援計画を作成し、馴染みの環境や通いの場に関係が継続出来るように努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でもしてあげる支援をするのではなく、共に生活し支え合う者同士とした関係性を意識して出来ることややりたい事が続けられるよう役割(茶碗拭き・モップ掛け・洗濯たたみ)を持って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には季節毎の衣類の入れ替えや欲しい物がある時は連絡しお願いしている。家族内の情報をお聞きして連絡先や立場を理解し良い関係を築いている。年2回の「えんじゅの里通信」、年4回の「広報誌ほのか」等を家族様にお渡しし施設内の情報を共有している。、個人情報使用同意書確認は入居時に行っている。毎回の通院時や面会時には、利用者様の様子やお元気になっていることをお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの床屋への外出、家族連れでの食事会、お墓参りや自宅への外泊等の支援に努めている。また、馴染みの方が訪ねて来られても、玄関スペースで気兼ねなく面会を行っている。電話の際にはご本人様と代わりお話しをしている。受診時には本人の状態を主治医に伝えられるようにバイタルチェック表等を用意して支援に努めている。	家族や知人が頻繁に訪問したり、家族と食事や墓参に出かける利用者もいる。理容や美容は多くが来所してのサービスを受けているが、入居前から通っている馴染みの床屋に出かける方もいる。利用者は、法人主催の秋祭りでの馴染みの芸能人の歌や園児の歌と踊りを楽しみにしている。以前入居していた利用者のご家族から、新たな入所者の紹介もいただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や状態を把握し、利用者様同士が楽しく会話できる環境を作っている。耳の遠い利用者様には職員が仲介して利用者様同士の意思疎通を図っている。午後の余暇活動では職員がレクリエーション等を企画して皆さんと一緒に楽しく過ごしていただけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等での急な契約終了後でもケアマネジャーがサマリーを用意し、病院へ本人の状況提供に努めている。その後も家族様からの現在の様子や今後の予定等、電話での相談にも対応している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのホームでの生活・理解を把握し、想いに寄り添った暮らし方が提供できるように努力している。言葉が上手く伝えられなくなってきている利用者様に対しては、その方の尊厳を大切にしながら共同生活を継続できるような支援に努めている。	7名は対話でコミュニケーションが取れ、2名は、寄り添い声掛けを通し、仕草や表情から思いや意向を把握している。テレビやチラシを見て、食べたい、自宅に帰りたいなどの要望があれば、楽しい思い出などに話題を切り替えて気分転換を図っている。コーヒーも好みに合わせて砂糖、ブラックなどと日々対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔話や日頃のお話し等から各利用者様が大切にされている思い出を把握・理解している。また、家族様から今までの生活歴や生活環境等をお聞きしてより良いサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の過ごし方やその人の出来ることを把握し、様子や変化等を介護記録や申し送りで職員全員が把握し変化に気づける支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや介護記録から各利用者様の現状を把握すると共に、より良いケア提供のため職員間で話し合いを持っている。家族様来所時にはケアマネジャーからの介護計画の説明、家族からの希望・要望をお聞きして利用者・家族様のニーズに沿った介護計画ができるよう努めている。	ケアマネジャーが、日々のケース記録を確認し、並行して居室担当者から利用者の日々の様子を聴き取っている。ケアマネジャーは、6ヵ月毎に計画の見直し、継続を判断している。家族の意向は面会時に聴いているほか、6ヵ月毎にプランの内容も説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様の日々の様子、言葉、訴え等の気づきなど介護記録に記入しミーティングや職員会議等で職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開所当時からJA組合理容が入っている。利用者様の希望で新しい理容店も利用している。又、入居前からの理容店を継続している方もいる。ワクチン接種では協力病院から利用者様や職員の訪問集団接種をお願いしている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や地区センターの広報や胆江・岩手日報新聞、また、商工会議所や運営推進委員の方々から情報を提供していただき、楽しみながら地域行事への参加(花火大会・夏祭り)やボランティアへの参加を、地域の方々とは協力しながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居後も継続し家族様対応で定期受診をしている。利用者様の様子状態が変わった時はその状態の書面を用意して正確な情報提供ができるような支援に努めている。	利用者全員が、家族同伴で入居前のかかりつけ医に通院している。家族は、必要に応じて、ケース記録やバイタルチェックなどを持参している。緊急時には、職員が対応するほか、法人の看護師が月2回来所し、助言指導をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問で利用者様から健康状態について直接聞き取りが出来きている。利用者様を知ることによりきめ細やかな状態把握ができ適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院関係者とケアマネジャーがサマリーで情報提供をしている。又、必要時は電話でのやり取りをこまめに行うことにより情報交換・相談等で利用者様の治療支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については事業所では対応可能な部分を含めて入居時に家族様に説明している。食べ物を飲み込めない・浴槽をまたげない等事業所での生活が困難になった場合には入院や特養などへの住み替え等について相談することとしているが、状態変化時は早めに家族様へ報告し、今後の対応や方針を確認・共有しながら時には助言を行っている。	入居時に重度化や終末期の対応についての指針を家族等に説明し、他施設への移送などについても同意を得ている。事業所での看取りはないが、特養や病院への移送は、医師や家族と相談しながら行なっている。	重度化や終末期の介護、看取り対応への勉強会や講師による研修会を実施し、職員のスキルアップを進められることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命講習を受講し応急処置やAEDを使用できるよう急変や事故に備えている。また、急変時の対応や救急要請などでスムーズに行えるように「急変時の連絡・対応について」を掲示している。2名の職員が応急手当普及員の資格を勉強している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、日中・夜間想定火災避難訓練を実施している。通報装置により消防署や近隣住民への連絡がなされ協力体制は出来ている。また、震度5以上においては近隣の事業所への職員の応援の取り決めがされている。ハザードマップ上の危険はないが情報収集している。非常用電源として簡易型非常用発電機を設置している。	訓練は昼と夜間を想定した訓練を、消防署員立会いで実施している。誤報通報の経験を通して、通報の再確認を行なっている。食材や水を備蓄するほか発電機、ガスコンロも整備している。ハザードマップでの地域指定はなく避難場所の公民館も確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	歩んできた人生や個々の人格を尊重しながら、自尊心を傷つけないような声掛けや接し方に気をつけている。各居室には暖簾を設置しているが開暖簾、閉暖簾は個々の意思を尊重している。	呼びかけは名前に「さん」付けとしている。入浴、排泄などは同姓介助を基本にしており、異性介助の場合は利用者の意向を尊重して対応している。利用者の手伝いは、各自の自主性により自室のモップ掛けなどをお願いしている。居室へは了解を得て入っており、扉を開放している利用者は、暖簾を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりや会話等から本人の希望や思いの有無把握に努めている。又、遠慮なく自由に表現や決定ができるような穏やかな雰囲気づくりや話し方関わり方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの普段の過ごし方を把握することで、個々それぞれに沿った対応支援をしている。新聞を読む方、居室でTVを観て過ごされる方、ホールで他利用者様とお話して過ごされる方等、穏やかに自分のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った本人の好みも取り入れながらの服装選びは支援あるいは自身でされている。スキンケアを所持している方は洗顔後や入浴後に使用されている。散髪は家族の希望や本人の希望に合うよう理容の方と相談している。入居前から馴染みの理容店を継続している方もいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員の手作りで一人ひとりの好みや量を把握し、旬の食材や畑で収穫した野菜を使用して季節に沿ったメニューの提供、また、時折広告掲載やリクエストにお応えし食事をするを楽しんでいる。嫌いな食材は代替えしている。食後には茶碗やお膳、テーブル拭き等その方に合わせたお手伝いをして頂いている。	献立や食材の確保、調理は職員が行なっている。畑の野菜(たまねぎなど)のほか、地域住民のお裾分けの野菜も活用している。利用者の手伝いは主に皮むきや片付け等である。寿司、刺身などの要望にも対応し、誕生日には市販ケーキに職員が工夫を加えて提供している。おやつは時々手作りで提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や水分摂取量を記録や職員間の情報共有などで把握している。体調確認をしながら個々に合わせた食事、水分を提供している。不足時には家族様に相談したり栄養補助食品等で摂取できるよう準備し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きうがい、就寝時には義歯洗浄剤を使用し口腔内の清潔保持に努めている。また、一人で難しい方には介助にて口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツにパットを使用する方、リハパンにパットを使用する方等一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘ったりする等できない所をお手伝いしたり、自分でパットを交換できる方には届く場所にパットを置き自立にむけた支援を行っている。歩行に自信のない利用者様で本人の希望により夜間のみベッド脇にポータブルトイレを置いて使用している方もいる。	布パンツの方2名、他はリハビリパンツにパットを併用している。離床センサーを一部の利用者に使用している。排泄の介助は、外での見守り程度に止め、失敗した利用者には、他の利用者に気付かれないようトイレ等に案内している。介助の効あって機能が改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、毎日手作りヨーグルト、こまめな水分補給、毎朝の麦ご飯、野菜を多く取り入れたおかず等を提供して自然排便を促す取り組みを行っている。また、ラジオ体操やごぼう体操、レクリエーション等で身体を動かす機会を作って予防に努めている。下剤の服薬管理をしている利用者様もいる。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿った湯温・湯量でゆったりとした入浴時間を提供している。利用者様より沢山のお話を伺う大切な時間である。職員は一人ひとりの状態を把握し安全に入浴できるよう支援している。入浴拒否の方には誘導・声がけの工夫をして無理のないように入浴していただき、毎日の入浴希望の方には希望に応えるように支援している。	1日4、5名が週に2回入浴している。入浴を嫌がる利用者は2名いるが、時間や日を変更しながら対応している。介助は、利用者の自主性を大切にし、頭や背中を流す程度に止めている。入浴時は歌を歌ったり、職員との話に夢中になったりしてそれぞれに楽しんでいる。季節ごとに入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠の様子を把握し職員で共有している。季節毎の掛け布団の調整をして気持ち良く睡眠がとれるように心掛けている。また、寝具はこまめに交換し清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員がしている。飲み忘れがないようにダブルチェックをする等して健康管理に努めている。薬の変更時には家族様からの報告を受けて職員間で共有している。様子等で変化があった時には家族様に報告し指示を受けている。また、処方箋はいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや得意なことを把握して洗濯干しやたたみ方、茶碗拭き、献立記入、モップ掛け等を自分のペースですて頂いている。また、希望の新聞を個人で購入して慶弔欄をチェックしている方もいる。行事食では必ずノンアルコールビールを希望される方がいて提供している。職員が毎月行事を設けて利用者様の気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望で施設周辺の散歩や近くの小学校の田植えや稲刈りの見学の他、季節の変化を楽しんでいただけるよう季節毎のドライブの実施、近隣のイベントへの参加(マラソン応援・花火大会・ボランティア・お祭り・コンサート・敬老会)し、外出の機会を増やす支援に努めている。家族様にも家族での行事に参加できることをお伝えして外出している。	天気の良い日は、ホーム周辺を散歩したり外気浴や日光浴などを行っている。小学生の田植えや稲刈りの見学、マラソン応援のほか、Zホールのイチヨウ、藤原の里の桜などを観にドライブにも出かけて楽しんでいる。自家用車を使用した3、4名の少人数での外出も行なっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金を管理している方はおらず、ご家族様より希望で預り金をお願いされている利用者様が数名いる。職員がその利用者様の希望品・必需品の購入代行を行っている。それ以外の方で希望品のある方は、家族様に相談して購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様にいつでも電話できるように携帯電話を持っている方もいる。職員は充電が切れがないように気をつけている。家族様より電話があった時はご本人様と代わり通話されている。家族様より、お手紙が届いたときにはお渡ししている。また、年賀状を毎年郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンや床暖房を使用したり窓を開けこまめに換気し清潔感を保ちつつ居心地の良い共有空間作りに努めている。季節に合った「飾り物・置物」で季節を感じていただけるよう工夫している。生活用品等で不快にならないように常に片付いているように努めている。	広々としたロビーは、高い天窓から光が入り、明るく、白い壁と集成材による木調の落ち着いた雰囲気、清潔感がある。利用者は、食事用テーブルなどで、テレビの視聴やDVDで体操して体を動かしている。壁には利用者のリンゴの切り絵が貼付され、クリスマスツリーが飾られ、季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が気軽に会話できるよう座席を工夫している。時には他利用者様とも会話できるように座席にこだわらず空いている席に自由に座り会話を楽しんでいただいている。また、ホールテレビ前にはくつろいでいただけるようソファを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子やダンス等希望される物を居室に置いて居心地良く過ごされている。位牌を持ち込まれている方、家族写真を飾っている方、テレビを持ち込み自由に視聴されている方。プライバシーを守るため、各居室のドアに暖簾をかけている。	ベッドやクローゼット、洗面台が各居室に設置されており、筆筒や仏壇、位牌や家族写真、ぬいぐるみのほか手作り作品など、慣れ親しんだものも持ち込み、思い思いの場所に置いている。各部屋の名称は、花の名前で表示し、必要に応じて個人名も記載している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に利用者様の名前を提示し、迷う事がないよう自立した生活を送れるように工夫している。車椅子や押し車、歩行器での移動の妨げにならないよう通路を広くし安心安全な生活を送れるよう配慮している。		